

## ご挨拶



天理教民生児童委員連盟委員長

山田 常則

天理教教庁では本年、中田善亮表統領が3期目を迎え新たな体制となりました。布教部社会福祉課においても村田幸喜氏が課長に就任し新体制での船出となりました。天理教民生児童委員連盟では長年委員としておつとめいただいた野田裕和氏（高知教区）、松尾弘幸氏（長崎教区）の両名が退任されました。

立教184年6月25日、松村登美和布教部長から新委員会の任命がありました。山田常則が委員長に大前道廣氏と吉永道子氏が副委員長に再任されました。また、新たに岡崎むつる氏（香川教区）が任命され総勢14名の新委員会となりました。

『みちのとも』立教184年5月号には中田善亮表統領の「これからの道の歩み」についてインタビューがあり、その中で「現在、新型コロナウイルスによって世界中が混乱している。この混乱は親神様のお働きに他ならないと思う。節を乗り越えて、これまでを振り返ってしっかりと検証し、反省すべきは反省して、再出発するような気持ちで通らねばならない。」と述べられ、「困難な状況にある人を探し、手を差し伸べていく。社会福祉活動を通して社会や地域の

人々と関わりを持ち、おたすけの機会を得ていく。活動は社会との接点づくりの一つである。大切なことはいかにおたすけをさせていただけるかということだ。」と活動の方向を示してくださいました。

2019年より世界中に広がり、パンデミックを起こした新型コロナウイルスによる大きな影響で、世界中が未だかつてないほどのダメージを受けています。しかしその中にもワクチン接種が進み、感染症対策の効果もあつて、日本では10月後半に入り全国の新規感染者数は減少し、政府は緊急事態宣言とまん延防止等重点措置を全面解除しました。世界各地においても日常生活に戻る国々が増えていきます。

私たち民生児童委員の活動では、2年前の任命時を振り返れば、初年度は順調に滑り出したものの、昨年からコロナ感染症の猛威で、数ヶ月後から2年目にかけての活動は、ほとんどの場面で自粛せざるを得ない状態となっています。

社会には種々の事情から困っている人々が必ずいます。今までは普通に出来ていたことが出来なくなりました。ウィズコロナの時代を迎え、「今まで出来なかったが、今だから出来ること」もあります。現状に止まることは出来ません。困難を抱えている人々は私たちの周りにもいます。コロナ禍に翻弄されることなく本来やるべき事、やらなければならないことを着実に実行して参りましょう。

今期委員会もよろしくお願い致します。



## 『オンラインおやさと研修会』（配信期間／令和2年12月25日～令和3年1月31日）

## おたすけに活かす非言語的コミュニケーション

## ～おたすけとバリエーションの接点～



講師 異 信行氏

（天理教修心分教会長・認定バリエーション  
ワーカー・五感対話法実践者）

## ● はじめに

先生方こんにちは。おたすけに活かす非言語的コミュニケーションということで、務めさせていただきます。敷島部属、修心分教会長の異でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

認定バリエーションワーカー、五感対話法実践者と二つの資格を民間からいただきまして、それを駆使しながら、天理教のおたすけとかおさづけの取り次ぎに当てはめられる方法はないかというところと工夫をして、もう10年目でございます。コロナ禍となりさすがに動きは取りづらいますが、あちこちの会場で普及に努めております。

## ■ コミュニケーションとは？ 非言語的コミュニケーションについて

カウンセリングというのは結構流行っておりますが、カウンセリングというのはそもそも来談者という相手がちゃんと言葉を喋れないとできません。もちろん、相手が涙声になったとか、言葉に詰まって間違えたとかそういう無意識的な反応というのは、しっかりと受け取って下さいますが、基本的に本人はちゃんとした言葉を喋れて自分の中で解決できそうな方が対象です。ところが、精神疾患の方々は言葉の操り方がおかしくなっておりますし、認知症高齢者となれば、どんどん言葉を失くしていかれます。その時にどう対応

するのかというのが、今までのおたすけではちょっと難しいのです。それを今コロナのこともあり、教内が大きな曲がり角にきておりますので、もう一度気を引き締め直して、普及とご理解に努めたいと思っております。ありがとうございます。

コミュニケーションというのは、一般的に意思疎通と訳されます。ただ、最近の動きとして、福祉関係では「分かち合い」だと仰います。お互いの「心の分かち合い」、「温かい心の分かち合い」だと仰います。

では、コミュニケーションは何で成り立っているかということですが、言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションで成り立っております。二つ併せて言語的・非言語的コミュニケーションというのが、共感法に結びつく訳です。

言語的とはどういうものかといいますと、例えば手紙の交換です。あまり感情の抑揚が見えなくてもコミュニケーションができます。言葉の意味と論理を掴めばいいからです。小説を読むというのもそうでしょう。

ところが、非言語的コミュニケーションというものがああります。非言語というのは、例えば僕の顔であれば、険しい顔をしているとか、目がきついか、今日は嬉しいことがあったのか目がたるとか、頬に力が入っているとか、声が普段より強いとか、スピードが速いとか、もつと落ち着いて

喋る人なのとか、また声色も変

わついているとか、イントネーションが付いているとか、大きい声を時々張り出すとか、また目つきもそうですし、呼吸もそうです。落ち着いている方は呼吸をしている様子があまり目立たず、分かりません。ところが、興奮したり、



怒ったりすると肩で息をします。その肩を見れば、この方は尋常じゃないということが分かります。あとは身振り手振りもあります。また相手は喋れないですけれども、ぬいぐるみ相手でも非言語的コミュニケーションは発生します。

(言語・非言語を)二つ併せてコミュニケーションは成り立っています。コミュニケーションの専門家によるとコミュニケーションの93%は非言語的コミュニケーションと言われます。なんと、言葉は7%に過ぎないのです。例えば、「こんにちば」と会釈でもすれば、「今日はよろしく」と応えが返ってきます。ところが顔をしかめて「こんにちば」と言えば、素直に受け取ってもらえません。「なんか嫌なことがあったのですか?」と返ってくるはずです。我々は言葉を自由に操れますから、言葉でコミュニケーションをしていると思いがちですが、ほとんど93%は非言語でコミュニケーションが成り立っているということです。そのことが一点です。

さてバリデーションというのはアメリカで開発された認知症高齢者とコミュニケーションをとる手法でございます。認知症高齢者がどんな言葉を失っていく、それに対応できない、言葉ではなんとも話が進まない、しかし、非言語があるじゃないかと。非言語の中にはたくさん感情が込められているよということが分かってきましたので、そういうことで構成されたのがバリデーションというものであります。

関西福祉科学大学大学院教授の都村尚子先生という元「バリデーション・ティーチャー」というバリデーションの最高位だった方がおられます。だがバリデーションには制約がありまして、認知症高齢者以外には使ってはいけないという決まりがあります。でも、使っていけばこれは精神疾患の人にも使えるとか、自殺しか思いつかない方にも使えるとか、発達障がいの方にも使えるとか、難病の末期の方にも使えるとか、いろんなことに気付くのです。そういう要請に基づいて、わざわざバリデーションのティーチャーを辞められて、今年4月に立ち上げられたものが「五感対話法」とい

う新たな共感法でして、私もその中に一人加えて頂いている訳です。

## ■今日の学びについて——エリック・エリクソン

今日の研修ですが、前半はエリック・エリクソンという心理学者の学びを入れております。人生は、勢いのある若い時は坂を上りきって頂点に行くけれど、そこからは下り坂になるイメージがありますが、この人を有名にしたのはライフタスク論という理論です。人間にはそれぞれ段階があるといいます。段階の中に生きていて、段階から段階のそれぞれに於いて、クリアしないといけない課題があると発見しました。乳児期から始まって老年期まで右上がりに段階的に上がっていく人生という構図を作ったのです。

縦の伝道というのは少年会と学生会がほとんど握っているような感じでございますが、そのくせ、よく言われるのは若者が教会から離れていくのですよ。信仰からね。これは丹精が足らなかったと言って、理の親や実の親が反省したりする訳であります。これは心理学を知らないからです。

なぜ、大人になるのか、大人ってなんだろう、迎える老年期ってなんだろう、というのが分からないから。縦の伝道というのは、実は一生かかっていることなのですが、簡単に諦めてしまうのは、学生会までしか縦の伝道を言わないからです。これは弊害ですね。お道の信仰の進展を阻害しています。そういうことも含めて老年期というのは何かということを考えて頂きたいために、まず前半は、エリック・エリクソンの心理学の学びです。

## ■今日の学びについて——認知症の特徴

後半は認知症高齢者をはじめ、様々な話が難しくなった方々に対してどのようなケアをするかということで非言語的コミュニケーションの実際を少しご紹介させて頂きます。

コロナの前はあちこちの会場に呼ばれていましたが、よく質問に出るのは「私も最近、ど忘れがひどくなつて、これは認知症ですか?」というもので

す。しかし、これは老化によるもの忘れです。対して、認知症は病気ですから、老化によるもの忘れとは格段の差があります。それを考えていきたいと思えます。

老化によるもの忘れは体験の一部を忘れる。対して、認知症では体験の全体を忘れるという事態が起こります。例えば、一昨日の昼ご飯は何を食べましたか？

参加者①「ラーメンです。いや、うどんです。」

隣の先生はどうですか？

参加者②「覚えてません。」

そうですね。普通は覚えていません。普通は聞かれたら答えられません。忘れていてのです。でも「食べた」ということは確かです。ところが、認知症の方は「食べた」という体験全体を忘れます。私の母は「ご飯食べさせてくれへん」とよく言いました。この2、3日ご飯食べてないわと言うのです。体験全部を忘れるのが認知症です。

それから、普通のもの忘れは記憶障がいのみ起こります。ど忘れというものです。それを人のせいにしても自分のせいだということは自覚しておりますから、なんとか探そうとします。認知症の場合は、記憶障がいに加えて、判断障がい、実行機能障がいというものが出てきます。例えば、歯ブラシを渡されたら、普通は歯磨き粉をつけて歯を磨いて、コップに水入れてうがいして、歯ブラシを洗う。これが判断と実行の機能です。私の母はレビー小体病という認知症ですが、仮に歯ブラシを渡しても持っているだけでございます。これが認知症のもの忘れです。

全部忘れるので、もの忘れの自覚も当然乏しい。でも、大事なものはあるのです。財布とか、女性であれば、ハンドバッグとかです。そういうものを失くした時は慌てます。しかし、ほとんど置き場所は思いつかない。自分がしたことすら忘れるからです。そうすると、心理的な操作で辻褃が合うように合理化が行われ、「これは誰かが盗ったな」となります。だから、ただの

「もの盗られ妄想」ではなく、そこに至る理由があるのです。

もう一つは見当識障がいが見られる、見られないという問題であります。普通のもの忘れには見当識障がいは見られません。見当識とは何かということですが、例えば、浮気をしている方がいるとします。浮気をしている時にあらぬ方向から奥さんがチラッと顔を出したら、ビクツとします。奥さんが来たということが分かります。では、その方に「それほど奥さんのことがよく分かっているなら、似顔絵を描いて下さい」と言ったら描けないのです。ホクロはここにあるとか、まん丸い顔だとか、髪の毛は短かったかなぐらいしか描けないのです。でも、奥さんだと分かります。つまり私達はだいたい見当をつけて毎日を生活しているんです。見当識が失われてしまうと、男性の場合はよく看護婦さんのお尻を触ったりします。自分の奥さんと区別がつかないからです。

それから場所も分からなくなってしまう。今日も皆さん方は朝起きて来られましたよね。自分の部屋でお眠りになったかと思いますが、朝起きて一番にされたことはなんですか？

参加者③「パジャマを脱いで服を着る。」

参加者④「洗濯の準備をしました。」

神饌場に行ったとか、トイレに行ったとかもあると思いますが、その前にしていることが一つだけあります。目覚めた部屋が自分の部屋であることを確認しています。カーテンの位置とか、昨日脱いだ服の跡とか、押入れとか、タンスとか。じゃあ、その人に「お宅のお部屋の見取り図を描いてください」と言っても描けません。壁何色だったかなとかも普段意識していないなら、分からないのです。でも、それでも自分の部屋だということは、見当識が働いているから分かるのです。

徘徊というのがよくあります。徘徊がなぜ、起こるかという目覚めた瞬間、この部屋が自分の部屋だと認識できないからです。そうすると、自分の部屋を探さないといけませんよね。徘徊にも理由があるのです。そういう

具合に見当識があるかないかで随分、生活が変わります。老化によるもの忘れは、日常生活が可能ですが、認知症になれば手助けが要ります。

### ■エリック・エリクソンのライフタスク（人生の課題）論

では早速、エリック・エリクソンのライフタスク論に入ります。ライフタスクというのは、日本語に訳すと人生の課題となります。人は、国とか、時代とか、社会とか、言語、習慣に関わらず、段階的に前に進んでいくといえます。しかも、各段階に課せられた課題とは普遍的だと言うのです。その課題をクリアしようと葛藤する日々があり、課題をなんとかクリアしたら、次の段階に行ってもスムーズに成長できるという理論です。

まずは、乳児期（0歳～1・5歳）です。「基本的な信頼VS基本的な不信」というものがあります。これは、基本的な信頼を得られるか、身に付けられるか、反対に不信を残すのかといった葛藤が毎日あるということです。赤ちゃんはよく泣きます。でも、なぜ泣くのかといえば、必ず母親が来てくれるからです。お世話してくれて、快適な状態にしてくれます。そういうことを繰り返すと、周りの大人は信頼できると認識します。ところが児童虐待とかがあります。親が無関心だとか虐待していると、泣いても叫んでも誰からも世話されない訳です。すると人間は信頼できないという不信感だけが募ります。この時の課題は、未来に対する「希望」です。この葛藤で信頼を身に付けた子は、希望をもって次の段階に進めるというわけです。

次の段階は幼児期（1・5歳～4歳）です。ここでは「自律性VS恥・疑い」です。保育園に行けば運動会がありますね。たぶんかけっこがあるでしょう。かけっこでよく子どもたちは転びます。その時に「僕が下手やったからや」とか「私はもつと練習しなかったからや」という子は自律性があります。でも「誰かが倒したんや」という子も必ず出てきます。「恥かかされた」「あの子がしたのに違いない」といった疑いを持ちます。自分の責任にするのか、他人のせいにしてしまうのか、葛藤をしながら生きているので

す。そこで自律性を身に付けた子どもは、明日に向かって「もつとやるぞ!」という「意志」を持ちます。

遊戯期（4歳～6歳）、これは学童前です。これまで順調にきた子はグループのリーダーになります。「皆、集まれ!これしよう!」と言ったら皆集まってきます。昔であれば、女の子はおはじき、男の子はボール遊びしようかとか言ってリーダーになります。自分がやることは皆が喜んでくれるという自信も生まれます。ところが、今までうまくいかなかった子どもは罪悪感に苛まれます。なにをしようと言っても聞いてくれない、怒られる、「僕がやることは悪いことだ」という罪悪感に包まれます。どちらかにいきま

す。この段階で身に付ける課題は「目的」です。  
思春期（12歳～22歳又は30歳）です。幅が広がっております。子どもはなかなか一人前になつてくれないので、心理学でも幅を持たすようになりました。さて、エリックソンを世界的に有名にしたのは「アイデンティティ」という言葉を提唱したからです。日本語に訳すと「自己同一性」です。自分とは何かと言える状態が、アイデンティティがあるということです。「俺は男だ」「私は女性だ」というのもアイデンティティです。

今、それが変化してきているような性の多様性が出て来ていますが、そもそもは「俺は男」「私は女」というのもアイデンティティの一つでした。先生方は恐らく「天理教の人間だ」というアイデンティティをお持ちだと思えます。どこの会場でもやりますから、ちよつとABCで拳手をしていただきましたと思います。

A「私と言えばひのきしんだ」。お迎えにデイスービスの車が来た。家族の方が見送っておられる。つい私も出て行って、お手伝いする。無事に車に乗せるようお世話するとか。

B「私といえばおたすけだ」。知人と何気ない話をしてもどこかでこの人に、にをいがけできないかなと構えている私がいる。

C「親です」。お借りしている信者さんをすごく大事にしているんだと。

Aはひのきしん。Bはにをいがけ、おたすけ、Cは理の親です。

Aだと思う人は手を挙げてください。次はB。Cの方。そのように自分とは何かという答えがアイデンティティなのです。

子どもの間、それはありません。教育というのはどの時代、どの社会でもそうですが、親からの精神的な自立、経済的な自立、そして家庭を自立するということを目標に行われます。そのきっかけは反抗期を迎えるということです。親はだんだんうるさい存在に思えてきます。「服装が乱れている!」とか「勉強しなさい!」とか言うわけですから、だんだん鬱陶しい存在になって反抗してしまいます。しかし、親の方は「あいつもだんだん大人になっっているなあ」「反抗期に入っているんだな」と我慢というか、寛容性があります。その状態が子どもたちには非常に重要な環境になります。そして、だんだんと自覚するのは「僕はなんで生まれたのだろう」ということです。「何をして生きていけばいいのだろう」「どうすればいいんだろう」という悩みです。そういうことを思い始めたら、アイデンティティを目指すようになったということです。

よく、お道で、「喜ばなあかん」とか、「子どもに苦勞の姿見せたらあかん」とか、「しんどくても勇んでいる背中を見せないとあかん」とか言いいますが、アイデンティティというのは、それにはあまり左右されません。感動して親の跡をついていきたいという子どももいるでしょうけども、親が苦勞していることはすごいと思うけれども、どうせなら自分のやりたいことで苦勞したいと思うのも普通です。普通のサラリーマンになりたいとか、作曲家になりたいとか。ですから、縦の伝道というのはどこかで区切ったらいけません。区切るから、理の親というか親は自分の責任を感じることが多々あるのだと思うのです。

まだまだ人生には壁や課題があります。結婚したとしても、家庭がうまくいかないとか子育てがうまくいかないとか。また、就職したけれども、どうも適職ではないとか、次のことを考えたりいろんな壁があります。その度ご

とに、親がアドバイスや行動を教えてあげたら縦の伝道になるわけです。縦の伝道というのは実は人の一生の問題です。それをエリクソンなんかは主張してくれる訳です。

次の若成人期はとぼします。時間がないので、老年期に入ります。

いよいよ老年期に入りました。お道はこの段階をあまり熱心に取り上げてきていません。お年寄りはおう隠居して下さったらいとか、またアドバイスをくれるだけでいいのだとか。このようなことはお考えでないという方が多いと思いますが、なんか、お年寄りばかり参拝している月次祭の教会を見たら寂しい気がしたという、本音を言われる事は時折ありますね。反対に子どもがたくさんはしゃいでいたらなんか将来楽しみなねと言われます。これはただの偏見です。私のところは教会では4〜5人くらいの認知症高齢者を中心とした独居老人のお世話をさせて頂いておりますが、お世話をすればするほど、子どもや孫から御礼がきたり、挨拶がきたりしますので、結構参拝者が増えていく傾向にあります。お年寄り、親というのは素晴らしいものです。布教で頭打ちを感じたとき、なぜ老年期に目をつけないのかな、私はそう思っておるのですね。

老年期の特徴というのはだんだん五感が鈍くなります。行動が鈍くなつて、足腰が痛み出します。不自由になります。記憶力も衰えてきます。社会でも「部長」と言われていた方でも、退職して地位を奪われます。「お父さんだ」「お母さんだ」と言われていても、子どもが自立していったらその役割が失われます。老年期は失う時代ですね。

しかも、問題がもう一つあります。今まで青年期とか申し上げてきましたが、やり直しや挽回ができる訳で、それは次のステージにあるからなのですが、ところが老年期はそれがありません。出直ししかありません。それは身に迫って実感で分かるのです。

地位・役割を失ったり、次の段階がなくなったりというところから大きな葛藤が出てきます。これが統合（成熟）という事に深く関わってきます。つ

まり、部長の職を失ったり、お父さん、お母さんという役割を失ったりすれば、自分の価値が分からなくなるのです。自分の価値がないとか、自分の人生にはもう意味がないのではと思うようになります。

よく頑固なおじいさんがおられます。「ええか！ワシの言うこと聞いていたらええねん！」「一生懸命、苦勞してきてここまでやってきたんや！分かったか！」と言われる方がおられます。女性ではお年寄りになったら、おしゃべり好きな方が多いです。「ねえねえ、おばちゃんの言うこと聞いときや」「ちゃんと、おばちゃんもいろいろ経験してきたんやから」と言って子育てを教えてあげたり、噂話をしたりします。若い方から見れば非常に嫌な存在かも知れません。でもそれは、老年期の課題を背負って頑張っておられているのです。失いつつある自分の価値とか人生の意味を自分の中で繰り返して循環させることによって、「自分の人生は良かったのだ」「自分には価値があったのだ」と思える訳です。お爺さん、お婆さんになっておかしくなった訳でなく、その時代にあった葛藤の末に、「統合」しよう、まとめようとされているということです。

しかし、そういうことができない場合は絶望と自己嫌悪が発生します。私に関わらせていただいたある男性で、「オレの人生はゼロや」と仰る人がいました。全く意味がなかったと。そういう葛藤の結果もあります。そういう時期に認知症が発症するわけです。ますます、記憶が衰えて相手の顔も分からなくなつて、自分の居場所も分からなくなる方々は、絶望と嫌悪に陥っていくしかありません。そこを手助けするのが非言語的コミュニケーションです。これは感情レベルで会話、コミュニケーションすることです。

人間は、記憶を失つていっても感情は残ります。出直す際まで、感情は残るといいます。嬉しい、ありがたい、怒ったとか。感情にコミュニケーションできなかったら、最後までコミュニケーションが可能となるのです。

## ■感情レベルの「コミュニケーション」の練習です

ここで感情レベルの練習させていただきます。私が「お前、財布盗ったやろ」と言います。それを感情に沿つてお返しして頂けるでしょうか？

異氏「お前、俺の財布盗ったやろ！」

参加者「何を言ってるの？したことないよ。そんなこと。」

今のは、お年寄りは盗ったと信じておられますから、対立させてしまつてますます反応が激しくなります。

他にいいアイデアありますか？

異氏「お前、俺の財布盗ったやろ！」

参加者「あつ、あそこにあったよ」

これは、施設でよくされます。でも、そうなら探さないといけません。でも、探すあてがないですよね。袋小路に陥ります。ここでいえることは、少なくともこのお年寄りは、盗られたのだと感情レベルで信じているということです。だから、その時の良い答えは、「異さん、あなたは私が盗ったと思ってるのね」と言うことです。

「私は盗った覚えがないですが、一緒に探しましょうか。どんな形をしていましたか？」と言えば前に進みます。その人の盗られたという感情を否定しないからです。感情を受けてコミュニケーションをしているからです。そういつたことが非言語的コミュニケーション、つまりバリデーション、五感対話等で提唱している方法です。

## ■母のレビー小体病

私の母は今年で94歳になりました。まだ健在です。レビー小体病という珍しいタイプの認知症にかかりました。平成20年に発症しました。

平成20年のこの時、私のところの教会は神殿普請の真つ最中だったので。ちよつと、母親が邪魔といったら邪魔、世話できないので、大阪にある上級教会に預けておったのです。住み込みという形で。その上級は住み込みが60人ほどおるといふ大きな教会でございまして、朝席を必ずされるの

です。その日の行動に無駄がないようにお互いにやること確認しようという訳ですね。その時、私は神殿当番で行っておりましてので、教服を着ながら上級の会長さんの隣に座っております。他に今日の予定ありますか？」と会長さんが最後に仰った時、うちの母が手を挙げたのです。

「私、昨日ね、お風呂に入ろうとして開けたら中に鼓笛隊の子どもたちが着の身着のままでわんさか入っているのですよ」と言ったのです。

「そういえばね、数日前だったかな、部屋へ戻って寝ようとしてドアを開けたら、ベッドの上や横や周りに見たこともない男の子や女の子が近所から来たんでしょね。いっぱいいますね。あんたら、もう夜なのに何してんの！はよ帰り！」と怒ったんですけども、そんなことしたらあきませんわな。やっぱり警察呼んで一人ひとりお家へ帰らすようにしたらよかったですね。どう思いますか？」という話をしました。一座はシーンとしました。何を言っているか分からない。だって、鼓笛隊とかは昨日なかったのです。ともかく朝席は終わり、すると横におられた会長さんから、「修心の会長さん、後で部屋に来て下さい」と言われました。会長室に行くと「実はね。お母様の近くの部屋の住み込みさんの部屋から、どんどん物がなくなるんですよ。洗面器だとか洗剤だとか。探したら、みんなお母様のお部屋にあるんです。申し訳ないですけど、今日は一回お家へお連れ帰り頂いて、病院へ行って頂けませんか」と言われたのです。



母、自教会の前会長です。

あくる日、市内の市立病院を受診しました。問診を見た専門医がその段階で思わず笑い出されました。「あー、これはレビー小体だ」って。レビー小体というのは初期に特徴的な現象がありまして、小動物とか子どもが、わんさかという幻覚に襲

われるのです。経験ある方もおられると思いますが、「うちの部屋にねずみいっぱい出て来るねん」というお年寄りがたまにいます。「ねずみがいっぱい出て怖くて寝られない」。これはレビー小体ですね。出る訳ないのですが、いずればつきりと認知症状を呈し、パーキンソン症みたいのが出て足が不自由になるということでした。すぐに上級の住み込みをご辞退し、家に連れて帰りました。

あくる年、「レシート事件」が起きました。平成21年11月17日。私の母の最後の買い物物のレシートに記された年月日でした。その日、私がたまたま家におりましたら、母が真つ青な顔して汗をかきながら帰って来ました。

異氏「どうしたの？」

母親「いやー、私、腹立ってな。あのスーパーのレジの女、腹立ってしゃあないねん。もう二度と行かへん。私がない、レジ並んで、私の番になったから私が買った物いちいち確認してたんや。そしたら、レジの女が『皆が待ってますよ。早くしてください！』と言ったもんだから腹立って、もういらんわ、言って帰って来たんや！あんなひどいとこないわ！」

そう言ったのです。お年寄りにそんな失礼なことを言う人がいたのだなと思いました。しばらくしたら、他系統の布教所のご婦人さんが来られました。ご婦人「今、お母さん帰ってきはった？」

異氏「ああ、帰ってききましたよ」

ご婦人「いやー、実はいつものスーパーのレジに私も行ってたんよ。そしたらお母さん、買う物のお金が出せなくて…」

お金を出せなくて戸惑っていたら、レジの女の人が「ゆっくりでいいですよ。お待ちしておりますから」って声かけたそうです。しかし、それが刺激になって、怒ってカゴから買い物を取り出して帰って来たようでした。

ご婦人「えらい剣幕で帰って行かれたから心配で…」

そう仰って頂きました。後半はほぼ同じですが、前半のレジ前でのやり取りは全然違いました。認知症の方は、いつかは社会生活が送れないようにな

り引きこもりになります。私の母のその瞬間はこのレシート事件でした。

平成22年から徘徊が始まりました。パトカーに何度もお世話になりました。ある時は道路の真ん中を右往左往して国道が立ち往生している時もありました。なぜ徘徊をするのかという理由は二つあります。一つは居場所が分からなくなったということです。もう一つは誰かを探しています。但し、その方はもう亡くなっている場合もあります。先程の道路で右往左往している時、私は走っていききました。路側帯まで連れてきて「お母さん何してんの」と言いました。そしたら「なんや、あんた探してたんやないの！ すぐおらんようになって、どんだけ、親に心配させんの！」と言われました。母は私を探していました。

徘徊を止めることも非言語的コミュニケーションを使えば可能になります。

## ■バリデーションと出会う

平成23年秋、母について一番困った事が起こりました。ある日、朝ごはんを部屋に持って行った時、様子が変わっていました。目の焦点が定まらず、遠いところを見ていました。右手の人差し指を口に入れて「帰りたい。帰りたいよ」と言い出したのです。普通は実家であつたりします。施設であれば、自分の住み慣れた家に帰りたいということがあります。ところが、母は内娘で実家は今住んでいる家でした。神殿普請をした後でしたから「部屋が変わったけども、ここはお母さんの部屋やからここにおつてよ」と説明しました。しかし、全然効果がありません。三日三晩続きました。さすがに気持ちが切れました。困り果てて、母を担当しているケアマネジャーに電話しました。

異氏「実はうちの母がこうなつて、もう、どうしたらいいか分からなくて」ケアマネ「異さん、これはたぶん物理的な家ではないわ。きつと若い時代の子育てや仕事に輝いていて生きがいを感じていた時代に帰りたいと仰っているのだわ。一度、お母さんに若い頃に戻ったつもりで御礼を言ったらどうで

すか？ 感謝の言葉をお母様にあげて下さい」

と言われました。いろいろ思索したら、それしか方法が残っていません。あくる日、意を決し、朝ごはんを運んだ時に「お母さん、いつもありがとう！ おいしいご飯作ってくれて！ 兄弟も皆元気にいったよ。お母さんのお陰だよ。ありがとう！」と言いました。そしたら、その瞬間、帰りたいが止まりました。95歳になるまで10年以上経ちますが、あれから一度も「帰りたい」と言いません。御礼の電話をケアマネさんにしました。

異氏「ありがとうございます！ 素晴らしいアドバイスでした。すぐ喜んでくれて、帰りたいというのが止まりました。ケアマネさんのお陰です」ケアマネ「いやいや、そんなことないよ。異さん上手だったのだわ。それ、バリデーションというのよ。一回、真剣に学びませんか？」とお誘いがありました。

平成23年12月11日、日本でのバリデーションの第一人者である都村尚子先生の研修に出ました。目からウロコでした。実演も素晴らしいかったです、一番印象に残っているのは、認知症高齢者の意味不明な行動にも全て理由があり、理由をつかまなければコミュニケーションができないということでした。徘徊やもの盗られ妄想にも理由があります。これはバリデーションが提唱している非言語的コミュニケーション「バリデーション」の原則です。



関西福祉科学大学大学院教授  
都村尚子

## ■簡単なバリデーションの実演です

ここで実演してみます。傾聴する共感するといつてもその感情に傾聴して共感しなければいけません。

A「こんにちは。お歳は90を超えて長生きされましたね。」と言って下さい。

B 「長生きしてなあ」と答えます。

A 「●●●●」 「ここを考えてください。」

参加者(A) 「こんにちは。お歳は90を超えて長生きされましたね。」

異氏(B) 「長生きしてなあ」(暗そうに言う)

参加者(A) 「いい人生ではなかったですか？」

異氏(B) 「苦しいことばかりやった」

ありがとうございました。良かったです。我々には偏見があります。長生  
きは良いものだと思います。しかし、長生きしたために子どもに先立  
たれる等の不幸を見ることもあります。Bさんの姿勢とか気落ちした声とか  
を聴いて感情をつかんで頂けたら、次に出す言葉が変わってきます。「何かあつ  
たんですか？」とか。これが傾聴と共感です。ではもう一つお願いします。

異氏(B) 「私はダメな人間でね」(暗そうに言う)

参加者(A) 「どうしてですか？」

結構です。話を聴く側は情報を持っています。お年寄りでも子どもさん、  
お孫さんがたくさんいる方もいます。一番良くないのは話を聴く側が「ダメ  
な人間ですか？たくさんお子さん育てて立派じゃないですか」と言ってい  
ます。その時に評価してしまっているのです。でも、評価は本人が  
するものです。相手が「ダメな人間だ」と思っていたら、評価しないで共感  
しないといけません。「何か辛いことがあったんですか？」「ダメな人間だ  
と思っておられるんですね」というのが答えです。

それから、嘘をつかない。例えば、施設で「帰りたい」と帰宅願望が出た  
お年寄りに「家に電話したけど、留守やったわ」とか嘘をつくことがあります。  
す。あるいはごまかすというのがあります。「まあまあ、そんなこと言わず

にお茶でも飲もう」とか「散歩でもしよう」とか言って施設の中をぐるぐる  
回っていたら認知症高齢者は忘れてしまうのです。でも、実は悔しい思いは  
残ってしまいます。不誠実な行動にはいつか感情が爆発してしまうのです。  
感情レベルで「傾聴する、共感する」、また「評価しない」、「嘘をつかな  
い」、「ごまかさない」、これらはとても大切なことです。

### ■老健での実践ビデオから——「未解決の課題」

それでは、ビデオをご覧ください。ある認知症の高齢者にバリデー  
ションをしています。視線を合わせながら、言ったことを繰り返し確認して  
います。認知症の方にとつたらよく話を聴いてくれているという喜びにな  
ります。

バリデーションでは認知症高齢者には「未解決の課題」というものがある  
と主張します。それによつてご本人が何に苦しんでおられるかが分かりま  
す。その未解決の課題とは何かを見て頂きたいと思います。

——バリデーションを

実践しているビデオを見る——



『未解決の課題』を持つお年寄り

未解決の課題、分かりましたでし  
うか？それは小さい時に二つ上のお兄  
さんを亡くしておられるということ  
です。「そんなことが未解決の課題な  
の？」と言われるかもしれませんが、  
私の母も若かりし30代で40歳の主人を  
亡くし、教会長を継ぎました。そんな  
危機に直面すれば、皆、現実を  
生きてしようとします。「悲しんでいる場  
合ではない」「子ども4人もいる」「教  
会を支えないといけない」といった緊

張が先に走ります。ところが、歳を老いてようやくその任務が終わったと思つた時に、蓋をしていたその蓋が開くのです。

ある時、母は、父から送られたラブレターを持って来しました。「こんなもらつたんで」とか「優しかったで」とか写真を見せたりするのです。子どもの私共からすると読むのが恥ずかしい内容もありますが、母は父と出会つた時代の喜びにようやく帰れたのだと思います。たいがいの人は人生が順風満帆ではありませんから、失敗とか後悔を抱えながら生きています。それが必ず老年期に出てきます。認知症に罹り全てを失つたら、理性が外れていろんな過去や課題が出てきてしまい、悩んだり苦しんだりすることがあります。そこに共感することがとても大事です。皆さんもそう言われれば蓋をしているものがあると思いますね。私も認知症になったら何を言い出すかなと内心では気になっているこの頃です。

### ■全国のガン患者数は？そして認知症高齢者の患者数

全国の癌の患者数と精神疾患の患者数の統計です。癌の患者数は百万人ちよつとで年平均37万人の方が出直されます。しかし、百万人の患者数を維持しているということは同じだけの発症者がいるということです。これは癌センターによる今年（2020年）7月の発表です。

しかし、今の医学は、NHK特集で何回か見ましたが、あと10年くらい経てば全ての癌は撲滅できるという計算を立てているようです。この前も光免疫治療というのが保険可能になりました。レーザー光線を当てながら殺すやつです。薬物を飲んで、緑に光つたところをレーザーで焼き殺すのです。最新治療が保険治療に変わりました。天理よろづ相談所病院「憩の家」の元副院長だった今中孝信先生が、『陽気』誌で紹介されていたのが、癌活性撲滅治療法というものです。癌は後になって出来る異物ですから、寄生主である人間から栄養をとるために血管を張り巡らせませす。しかし急造りで新しいから弱いのですね。マイクロ波、これは電子レンジですね。電子レンジの熱を

当てたら、他のところは影響ない訳ですが、その熱さで癌の血管が破裂するのです。そういうのが紹介されておられました。あと10年で癌との闘いも終わるのだそうです。今の医学でも癌を消すというのは可能です。オペで切除するよりも薬で消すということも可能です。そのくらいまで進化してきました。

ところで、精神疾患の患者数は4百20万人です。これは2017年の記録です。それに比べ全国の認知症患者数は今年（2020年）で6百35万人を超えたと予想が出ています。そこに予備軍4百万人を加えたら1千35万人。精神疾患を加えたら1千4百55万人が悩み苦しんでおられます。医学での根治治療はまだありません。それを我々が担わないといけないと思います。

今年8月27日、表統領先生が「これからの道の歩み」と題して講演されましたが、その中でこういうことを仰っていました。「世の中のおたすけのニーズと教会のおたすけの方向が合致していることが大事だ」。

世間のおたすけのニーズがこつちに移っているのです。認知症や精神疾患の方に。でも我々は未だに癌が消えたら不思議なご守護だと言っています。これが、お道のおたすけが活発にならない理由です。ただ、言葉がうまく通じ合わないの、非言語的コミュニケーションを身に付けないといけません。それをやって下さったらどんどん出来るのですが、私一人があちこち回っている段階でありますし、こんなふうにビデオでリモート研修で公開して下さるのはとても有難いと思っております。私は、「天理教のコミュニケーションの改善を」とお願いしております。

### ■教内のコミュニケーションの改善を！

コミュニケーションを我々は言語でやるものだと思っております。しかし、非言語が9割です。

今までのお諭し、お話というのは、悪く申すなら言葉を失えばおしまいコミュニケーションではなかったでしょうか。また、なぜ我々は言葉による

心定めにこだわるのでしょうか？ 一つは教祖が現身を隠された、明治20年の神人問答の中に出てきます。

「さあ、月日がありてこの世界あり、世界ありてそれぐあり、それぐありて身の内あり、身の内ありて律あり、律ありても心定めが第一やで。」

「やはり、何事にもまずは心定めやな」と、何度も学んでいるうちに私達はこれを身に付けてきました。

さて、非言語とはどういうものかといいますと、表情ですね。怒っている顔、悲しんでいる顔、いろいろありますが、うまく表情がでない場合が認知症ではよくあります。目が虚ろだとか苦しそうだとか、嫌そうだなとか、頬が突っ張っている、口開けたままとか、そういうのをパーツとして見抜く練習をしております。視線というのも大事です。喜んだ目なのか虚ろな遠くを見ている目なのか、これも大事です。声だつて注意点が色々あります。高さや大きさ、イントネーション、息づかい、声色などです。そういうものを含



2019年高田支部バリデーション研修会  
於・天理教中和大教会

めてバリデーション、そして五感対話法は開発されました。

ぬいぐるみを持つての非言語的コミュニケーションもあります。女性は比較的好きです。うちの家内も大好きです。「今日も大変だったね。会長さんは今日も当番だけど、二人で頑張ったね」とぬいぐるみに向かって話しています。これも一つの非言語的コミュニケーションと言えます。

心定めは大事ですが、私は、非言語的コミュニケーションを使って二つに心定めをしようということを訴えております。「おさづけ」の取り次ぎは、バリデーションと同じように向かい合つてやります。

コロナ禍になりましたから、これは最後のバリデーション研修会となりましたが、昨年の中和大教会大広間での実習です。左側が都村尚子先生、引きこもつて視線も合わそうとしないお年寄りを演じて下さっています。隣の若い方は初めての挑戦です。言語が不自由になっていく認知症高齢者との「話一条」の場面で、どのようにアイコンタクトをし、手に触ったり、声をかけたりして非言語的コミュニケーションに移すかという練習の最中です。非常におさづけを取り次ぐ場面と似ているのですね。

次に昨年の東京の話になりますが、「第2回東京教区主催のバリデーション研修会」をやりまして、私が講師を務めました。いろいろ実技をしてたくさんの方に身に付けて頂きたいと頑張りました。

終わると控室にあるご婦人さんが来られて、「先生、昨年教えてもらったバリデーション。いつもそれをやって施設のおばあさんにおさづけするの。そしたらね、大変朗らかになって、私たちの介護をなんでも受け入れて下さるようになったわ。やっぱり、バリデーションとおさづけは大事ですね」と仰いました。

それから直近の例でございますが、私は今4人抱えている独居老人のうち、認知症の症状を呈するタナカ（仮名）というお婆さん、アルツハイマー型認知症の方のお世話を夫婦でやっております。お婆さんは、若い時は2件のお店を経営するキャリアウーマンでした。ところがお金が一番で、自分の兄弟姉妹と、お互いの子どもの進学競争に明け暮れた半生だったのですが、子どもが自立しますと、昨年84歳で認知症を発症しました。

「お金がなくなる。泥棒が入っている」と言つて、頻繁に派出所に駆け込みます。「お巡りさん来て！また泥棒、入った！」と言うから、警察官が来ます。窓という窓は全部、内側から閉まっているので、入りようがありません。

ん。警察官が「どっから入ったん？」と尋ねると、「だからそれを捜すのがあんたの仕事やろ！」と常にけんか腰で応対します。いつも派出所に電話をするか飛び込むかで、大変、近所迷惑な状態でした。

それを、ある日、タナカさんの顔見知りの市会議員さんが立ち寄った際、議員さんがふと私の名前を思い浮かべて下さって、その方の紹介でタナカさんはうちの教会にやって来ました。他の場面でも興奮と暴言が絶えることなく、なかなか毎日が治まりませんでした。

そこでタナカさんの身内の提案で、介護チームを作ることになりました。高田市の地域包括支援センター、これが認知症の介護も担う元締めであります。その係の方にお願ひしまして、私、ケアマネージャーと、皆様のような地域の民生委員とが付いて、チームとして介護や世話を行うことにしました。そこでケアマネさん、私と相談しながら、ヘルパー事業所を探してきて、デイサービスもここなら良いというデイの事業所を探して来て、ようやく介護の大枠が決まりました。それでも最初は、ヘルパーへ暴言の吐き放題。面と向かう時はそこそこ大人しくしているのですけど、帰ってから、「あのヘルパーなんや、会長さん。来たら来たで、一日中ずつと話をするだけで、掃除も洗濯もしないで」と怒ります。

話をする事は私が指示してるのです。勝手に部屋に入り掃除や洗濯をしたら、すぐ苛立ちや興奮が起くるので、まず部屋に入る前にはまず十分コミュニケーションしてからとか、タナカさんを「お母さん」と呼んであげてねとか言ってる。それでセッティングしている訳なのです。軌道に乗るまでなかなかで、いつも暴言が付きものでした。デイサービスだって、お迎えの車で施設に行きますが、そこで暴れるのです。その施設にはもの静かなお年寄りが多かったのですが、たちまち「こんな年寄りと私を一緒にしている。私あんなのと違い、もつと偉い」と言ってる、怒って、仕方なく係から個室に閉じ込められたら、その壁やガラスは叩くわで、いつもクレームが来るようになりました。そういう方を私は、ほぼ毎日非言語的コミュニケーションを

しながら過ごして参りました。その映像もありますし、身内から許可をいただいておりますので、訴えの激しい時の状態がどうなったかというのはいずれ公開できると思います。

ところが非言語的コミュニケーションを続けていたある日、教会に来たタナカさんは次のように仰いました。

「私な、泥棒に入られる訳が分かった。今までお金ばかり貯めて人にあげる気なんて全然なかったから、恨みとか憎しみとか思っていた人、たくさんいたと思う。そういうことを積んできたから、今度は泥棒に入られる順番回ったのやな」と。全然その辺りの根拠は分かりませんが、自然に感情からそういうように仰るから、私は入っていかないとはいけませんね。

「いいこと思いつかれましたね。そうかも知れんね。」

さらに、「もうお金いらない」と言われるので、

「今日からお金より人との温かさを大切に生きると心定めて通りませんか」と言っておきづけを取り次いだのです。そしてタナカさん、「会長さん、御供したい」と言われたのです。

認知症の方から御供を頂くというのは、私だって難しいと思います。その人の本当の意思かどうか、次の瞬間に違うことを言われることがありますので。多分、今まで直接ご本人から頂くことができた方は、そういないのではないかと思います。これほど症状の激しい方が御供を言われたのです。

僕は、「分かりました。頂きます」と言ってお受け取りました。大きな御供をして下さいました。一緒に行って、銀行からお金を下ろさせて頂きました。恐らく以前の自分ならこういうことは難しいなあということを、私は初めて経験させて頂き、とても有難かったと思いました。

タナカさんのこれからの目標は、お金を考えずに毎日勇んで通りたいというものです。そしてその心定めからほぼ一カ月経った頃の事を言いますが、実は泥棒は出なくなりました。それからヘルパーからの評判は良くなり、デイサービス施設での評判も少しずつ変わってきました。今では、ヘルパーが

訪問してくると、「この子、私の娘よ。よう来てくれたね。遅かったぐらいや」と言いますと、ヘルパーも、「お母さん、帰って来たよ」と上手に応じてくれます。デイサービスも段々落ち着かれています。

私達、おたすけ人のたすかつて頂きたいという気持ちに、非言語的コミュニケーションを結びつけて「おさづけ」の取り次ぎをして頂けたなら、こういう有難い嬉しい話が、これからどんどん起こってくるだろうと、私は思っております。

言語で心定めてたすかりを願うこと、これが今まで普通でありました。ただし、その場合は誰もが言葉を話せるというのが前提です。この思い込みや枠組みのようなものが、これからのおたすけを進めるに当たり大きな阻害になっています。おたすけ名人ほど、精神疾患や認知症は前生いんねんだと言いつつ、「あの先生だつてこう仰るのだから、我々はとつても認知症のおたすけは出来ない」と思い込んで、最初から諦められる人が多いと思いますが、これには全然根拠がありません。

非言語的コミュニケーションを使えば、いくらでも症状は良くなります。非言語を芯とするコミュニケーションを使えば、感情レベルで新しいおたすけが経験できるというのを、実習を通して身に付けて頂く。これが僕の研修の目的でございます。

### ■明日から実行できること

最後に「明日から実行しましょう」です。まず、明日からは「相手に表出されている非言語的要素を見逃さない」ということです。目とか表情や声を手掛かりに相手の気持ちを探るという姿勢です。何を言うかというより、どう伝わるかという意識を持ちましょう。分かち合いの第一歩でございます。

認知症は陽気ぐらしへのプレゼントです。なんでこんな病気がと言われるですが、親が認知症になれば、子や孫は仕方なくも帰ってきます。そこに居合わせることも、どれほどラッキーなおたすけの現場になるかということでは

す。陽気ぐらしをさせたいために親をどんどん認知症にして下さっているのかなと思う今日この頃です。

私が最後に提案したいのは、これからのおたすけのあり方です。単に講話で聞くおたすけ話ではありません。毎日のリアルなおたすけを申し上げたいと思います。立派なおたすけをされた先生のお話には感動がありますが、真似しようと思ってもきつと真似はできません。それは講師が立派過ぎて真似できないという訳ではなく、同じおたすけは二度とないからです。一人ひとり違います。認知症高齢者もそれぞれ個性があります。一人ひとり導き方も変わってきます。御供もお金を御供にして頂く御供に限らないでしょう。

非言語的コミュニケーションを身に付けると感情までが分かってきます。癖、性分、いんねんも見えてきます。共感すればするほど、分かち合いが進んで、温かい関係が生まれます。その上で認知症なら、その専門知識を活かしつつおたすけするというのが、私の提案したいおたすけです。現代のおたすけは知見や経験に基づき知識がどんどん増えていきますが、知識だけではできません。まず、優先するのは非言語的コミュニケーションを身に付けるということです。身に付けることでこれからのおたすけが開かれるということとを申しまして、今日の研修を終わらせていただきます。ありがとうございます。

### ●講演後の質疑応答から

Q アルコール性認知症の方です。過去に借金をし、それが未解決の課題になつています。常に自分はダメな人間なのと言っています。この方にも共感していけばよいのですか？

A. そのご様子は直接見ないと分からないことですが、先程のタナカさんを例に挙げますと、子ども2人おられます。下の男の子はロンドンに住んでいて、事業に成功しています。娘さんも聞けばとても裕福だそうです。

しかし、親子の縁は切れたままです。ヘルパーさんとかはよく「そんなこと言わんと、息子さんロンドン住んでいるでしょ？立派ですよ。」と言ってしまうのです。しかしながら、立派な教育を身につけた息子が、「なぜこんなに困っているのに帰ってくれないのか」という未解決の課題が解決しない限り、いくら他人からよく聞かせてもらっても、喜べません。そこには未解決の課題があるから。

先生のアルコール性認知症の方も、借金をして皆に迷惑をかけたということが未解決の課題として、価値がない、人生が無駄だったと思われると思うんですけども、無駄であるというその方のお話にすっかり傾聴と共感しながら、その人の借金から立ち上がっていく道筋をストーリーとして、お互いが確認できたら、「大変だったけどよくここまで来たな」という意味や価値を身に付けられるので、そういうコミュニケーションをなさったらどうかと思います。

**Q.** 村田幸右衛門先生が認知症のような状態になられた時、教祖は「魂はもう先方へ宿っておるがな」と仰った話があります。講演を聞いて、今世の課題を消化させるために認知症はあるのかなと思いました。

**A.** 出直しの教理ということに関して、魂が生まれ替わり出替わりするということを人間に教えるために親神様がなさっていることです。魂があるかどうかということは哲学でもなんでも解決できないので、立ち入りません。教祖だけは答えを知っておられると思いますが、魂は目に見えないもの。身体を通して生まれ替わって出替わりする。この事実は大変重いものだと思います。私が心に置いているのは、確か「山澤さよ」と、あとに命名される女の子が生まれた。そしたら教祖が「生まれ替わりの証拠やろ。この者の前世ははるやで」と仰った。梶本はるさんですね。教祖の『逸話篇』などいろいろ出てきますが、生まれ替わりを教えてやろうという仕込みだと思っています。

認知症でも、重い認知症の方を元に戻すのは不可能です。そうなったら、

教祖の仰る通り、魂を抜き取って下さったのかなと、こういうのが大事なかなと思っております。それから、僕は身上のおさしづを時々読むのですが、昔の不思議なたすけはたくさんあったというふう到我々は教えられてしまつて、なんか頭に染み込んでおりますが、じゃあ教祖のご在世中には皆、115歳まで生きた人が何人もいたか。そういう例はないんです。皆、長くても90歳ぐらいでお出直しされてます。それについてあるおさしづでは「いつまでも不思議なたすけあると思うやない」と仰っています。生まれ替わりを教えてやらな、ならん。つまり、死期が迫れば、生まれ替わり出替わり、「かしの・かりもの」を教えなさいという仕込みだと受け取っています。認知症に関わらず、身体が動かなくなったら、うちも私も重体の方二人おるんですけれども、その人にも奥さんにも生まれ替わりがあるんやからということをおさしづにしています。そういうふうにしておさしづには生まれ替わりも含めて教えて下さる言わば人類の宝物だなという印象でございます。

おさしづも刻限のおさしづは皆さんよく研究されるのですが、身上たすけというのはすごくありましてね。一番多いのは身上たすけですけど、ほつたらかしにされていて、そこに見えない宝物がたくさんあるんですね。ものすごい勉強になるのが、おさしづの中でもこれからは身上たすけかなと思っております。

**Q.** 先ほどのビデオでは、相手が動いた通りに動いていました。そうしていくものののですか？

**A.** ミラーリングという技法です。鏡のようになるんです。これは五感対話法でも受け継がれています。同じことをしてくれていると自分のことを分かってくれているという安心を与えます。我々がそうすることで、相手の気持ちが非言語で伝わってきます。

**Q.** 認知症は陽気ぐらしへのプレゼントと仰いましたが、実際に家族の方々

に理解していただくのは難しいと思います。お世話されている方々はどのようにすれば喜んでお世話できるでしょうか？

A. 兵庫県の方ですが、認知症になられまして暴言吐いたりする方がいました。2回ほどそのお宅に行つてバリデーシヨンの見本をさせて頂き、息子さんにその様子をビデオに撮つて頂き、主に奥さんに毎日、同じ事をやってほしいと依頼しておきました。実践をされると、その都度FAXでこうしたあしたというのが届きますから、またFAXで返してというやり取りをしているうちに、改善して大変喜ばれたというのがあります。

さつきまで非言語的コミュニケーションをしていると、相手の表情が明るくなつたとか背筋がちゃんと伸びたとか抵抗されなくなつたとか、ご飯を言われた通りに食べるとか、それらが顕著に表れまして、結果的にはそれがコミュニケーションのゴールなのです。私はお宅まで何回も行けないので、家族の方に実践して下さいとお願いして、それでかなり家族から喜ばれたというのがあります。

先生方も身に付けていただいて、近くの信者さんだったら何回も行けると思いますが、そのうちに家族の誰かを目途にして、「毎日こうやりや」と。なかでも実はアイコンタクトが一番大事です。それとリフレーミング、繰り返すことが大事です。相手のキーワードを返してやるということです。感情を表すキーワードが出てくるので、それを真剣にお返しするということです。

それから歌を歌うというのも大事です。私の母はおつとめが大好きなので、おつとめと一緒に歌つたらすぐ表情がよくなつて改善しました。これはおつとめのご守護だと言えないこともないのですが、関係の学会があります。「日本スピリチュアルケア学会」というのがあります。上智大学に本部があるのですが、そこで関西福祉科学大学で助教をしている種村さんが発表してくれまして、他宗教の方々から質問があった。おつとめというのはそんなに素晴らしいのですかという質問がありました。歌というのも、とても改善します。歌も非言語的コミュニケーションです。言葉を忘れてもリズムと

メロディーは残ります。それを活かす方法です。ワーカーの研修ではいくつも歌を覚えなさいといけません。その人に応じて歌えるような歌を選択して歌うんです。ものすごく効果があります。今は童謡を歌うのが多いですが、僕らのような年代が認知症になつたら、日本のポップですかね。

Q. バリデーシヨンを学び、実践することです。「たすかる」ということだが、どうなつたらたすかつたということなのか？

A. バリデーシヨンの効果、視線が定まる、姿勢がよくなる。呼吸が落ち着く。立ち上がつて歩くことができる。不安を感じないとか。介護者にとつても家族にとつても同じことが言えます。不安が喜びになるとかそういう状態をゴールとする。バリデーシヨンは、五感対話法では目指しています。

内面的なことを言えば、未解決の課題を克服して統合する。人生をまとめるといのが仕上げですね。いい人生だつたと思えるようにするのがゴールです。

話一条に非言語的コミュニケーションを身に付けるというのは、そのことによつて、バリデーシヨンではワーカーとクライアント、その2人のエネルギーが一つになると言います。だから、おたすけでも、相手が何らかの心定めをして下さつた時に、おさづけを取り次ぐようにしています。例えば、タナカさんというおばあさんは御用をしてくれましたが、「毎日明るく生きる」を心定めによくして下さいます。そういう心定めは結構分かりやすいもので、簡単なものをその人に応じてこうしましょうかと、一緒に決めていきます。それからおさづけを取り次ぐという順番をとっています。

Q. おさづけはどこにどのようにお取り次ぎさせていただいたらよいのか？  
A. 頭ですね。アルツハイマーというのは脳が委縮する病気です。アミノドベータという悪質なたんぱく質がいつぱい発生するんです。どこにできるか分かっていたのですが、最近の医学的な知見では歯周病が歯周ポケットか

ら中に入って各所でアミノドベータを作るということが発見されています。それが上に上がっていつて、へばりつくということが分かってきました。もう一つ、内側からの悪質たんぱく質もあります。これは脳の内側から発生するやつです。二重の異常なたんぱく質の発生によって脳の機能がだんだん停止していくというのがアルツハイマーです。タナカさんという人も脳をMRで撮ったものすごく縮んでおりました。ただ一つ侵されていないのが小脳でした。だから元気に歩かれます。

それから、先程のアルコール性の方は脳血管性認知症だと思いますが、これはかつて男性に多かったタイプです。アルコール依存症の方はよくなったとしても、脳の血管が破裂してしまっていると、脳内出血を起こしてそこは壊死するわけです。それによる発症です。

またうちの母のレビー小体病。電子顕微鏡で見ないと分からないような悪質たんぱく質がへばりついて。これもまだ治療はまだありません。

異常なのが、前頭側頭葉型認知症。これは認知症の中で唯一、厚生労働省の難病指定を受けています。それに雇ったら国から補助金が出ます。入院も含めて。これは何かというと赤信号でも平気で渡ります。お店に行っても構わず窃盗を繰り返します。女の人には痴漢をします。そういうのでとっても社会に置いとけないので、これについてだけ、厚生労働省は難病指定して、入院費も全て出る仕組みになっています。それ以外は難病には入ってません。

**Q.** これからは独り暮らしの高齢者が多くなると思います。お世話をするヘルパーさんなどにはどのように「陽気ぐらし」をしてもらえばよいでしょうか？

**A.** ヘルパーさんにとって大事な事ですが、おたすけ人でも同じ事だと思いますので、まとめて申し上げます。独居老人の方には、特におたすけ人やヘルパーさんが信頼関係を築くことが大切です。先程のタナカさんは、おぎづけをしたから信用が増えたとは一概に言えません。うちの家内はよく差し入れを持って行きまして、時間があれば毎日のように通ったことがあります

が、それもどれほどの効果があったかは分かりません。ただ、劇的に僕に対して印象が変わったのは、タナカさんはかつて喫茶店を2店舗構えておられまして、現在は店舗付き住宅の一軒ですが、一人暮らしをされています。すでに残った一軒の喫茶店も廃業されていますが、入口が喫茶店風のドアなのです。そうすると、色々な人が入って来ます。そのうちにキャッチセールスに狙われました。キャッチセールスで電話がNTTから勝手に換えられてしまったのです。確かにうたい文句は安くなりますが、色々とオプションを足していけないとNTTの通常サービスに追い付かないのです。今度は電気を新電力にというキャッチセールスが来たのです。その時に、「すみません、あとサインももうだけです」とセールスが言ったのです。私、怒りましてね。結局、若い男性の胸ぐらつかんで追い出したのです。その時にタナカさんはびつくりして、「先生って怖いんですね」って言ったんです。でも「守って下さったのね」と言って下さって、そこからお金も僕に安心して預けるようになりました。

これらは本日紹介させて頂いた直接のコミュニケーションではないですが、信頼関係をおたすけ人やヘルパーさんに寄せてもらうというのも、結局は日々のコミュニケーションで決まるのです。

その信頼関係の中で、おたすけ人やヘルパーさんも、共に味わえる「陽気ぐらし」が生まれるだろうと考えております。



## ご案内

## おやさと研修会

今年度の民生児童委員連盟「おやさと研修会」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、布教部のホームページから動画配信とさせていただきます。

視聴を希望される方は下記のQRコードから動画ページにアクセスください。

QRコードが読み取れない場合などは事務局 (kyo-ho-min@tenikyo.or.jp)

にメールで「氏名・研修会名・連絡先」を明記の上、お申し込みください。メールでお申し込みいただいた方には動画ページのURLをお送りいたします。動画ページ閲覧にはパスワードが必要です。で「6342」を入力して動画ページにアクセスください。

尚、動画の配信期間は令和3年12月25日から令和4年1月31日までとなります。ります。

## 「おやさと研修会」

(動画配信期間／令和3年12月25日～令和4年1月31日)

## テーマ①

『今、社会福祉課に与えられた使命、民生児童委員に期待すること』

## 講師

天理教布教部社会福祉課長

村田 幸喜 先生

## テーマ②

『こども食堂ネットワーク・コロナ禍の中で取り組んでいること』

## 事例報告

上平智一氏 乾真理氏

旭和世氏 出原みちこ氏

福本大介氏 岡定紀氏

6名による5分間ずつの活動紹介



動画配信 QR コード



動画配信 QR コード

## 令和 2 年度決算及び 3 年度予算

2 年度収入合計 276,581 円

2 年度支出合計 69,645 円

3 年度 繰越金 206,936 円

## 収入の部

| 項 目   | 2 年度予算額 | 決算額     | 3 年度予算案 | 備 考 |
|-------|---------|---------|---------|-----|
| 繰越金   | 65,581  | 65,581  | 206,936 |     |
| 年会費   | 250,000 | 211,000 | 250,000 |     |
| 研修参加費 | 30,000  | 0       | 30,000  |     |
| 委員活動費 | 45,000  |         | 45,000  |     |
| 利 子   | 10      | 0       | 10      |     |
| 合 計   | 390,591 | 276,581 | 531,946 |     |

## 支出の部

| 項 目     | 2 年度予算額 | 決算額    | 3 年度予算案 | 備 考          |
|---------|---------|--------|---------|--------------|
| おやさと研修会 | 50,000  | 2,575  | 50,000  | 講師接待         |
| おたすけ研修会 | 100,000 | 0      | 100,000 |              |
| 委員会助成   | 50,000  | 0      | 50,000  |              |
| 慶弔費     | 30,000  | 0      | 30,000  |              |
| 事務費     | 40,000  | 67,070 | 70,000  | 連盟だより印刷代、事務費 |
| 予備費     | 120,591 | 0      | 231,946 |              |
| 計       | 390,591 | 69,645 | 531,946 |              |

## 監査報告

監査の結果、活動は適正に実施され、帳簿の記載  
並びに証拠書類等は適正に且つ正確に処理されておりました。

令和 3 年 4 月 1 日

# 天理教民生児童委員連盟 委員紹介

氏名  
教区  
直属教会・所属教会

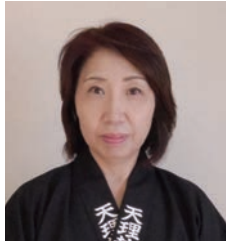
山田 常則 委員長  
奈良教区  
西・傳法



大前 道廣 副委員長  
兵庫教区  
社・明畑



吉永 道子 副委員長  
東京教区  
敷島・梅一



上杉 美子 委員  
大阪教区  
中河・島里



上平 智一 委員  
岡山教区  
大縣・天平



中村 誠一 委員  
北海道教区  
洲本・統典



北中 秀和 委員  
兵庫教区  
郡山・攝の宮



橋本 直之 委員  
大阪教区  
網干・網阪



三代 信行 委員  
鳥取教区  
笠岡・米美



毎田 孝則 委員  
山口教区  
周東・鶯谷



高野 恒善 委員  
新潟教区  
甲府・越後



末村 真人 委員  
兵庫教区  
兵神・湊西



青木 健裕 委員  
愛知教区  
本愛・本枇杷島



岡崎 むつる 委員（新）  
香川教区  
本島・与島



## 年会費納入について

天理教民生児童委員連盟では、会員の皆様に、年会費の納入をお願いしております。今年度未納の方には振込用紙を同封しております。何卒、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

○年会費 一人 1,000 円

下記の教区は教区で一括払い

北海道空知支部、埼玉、東京、石川、福井、山梨、岐阜、静岡、愛知、  
京都、兵庫、岡山、山口、徳島、香川、愛媛、高知、鹿児島